

平成艸紙



おりおりの記

花は桜木

SMBC日興証券
代表取締役副会長

渡邊 英二

「花は桜木 人は武士」と言われる。一休禅師はそれに続けて「柱は檜 魚は鯛 小袖はもみじ 花はみよしの(吉野の桜)」が一番としている。「敷島の大和心を人間はば 朝日に匂ふ山桜花」と詠んだのは本居宣長である。古今を問わず、日本人は桜が好きである。かく言う私もご多分に漏れず大ファンに他ならない。

散り際の良さや儂さが感性にピッタリなのだとも言われるが、難しいことは抜きに、溢れる春の高揚感と共にその素朴な美しさに心惹かれる。

東京での開花は3月中旬から4月初めだが、私の周辺で一足先に咲くのがオフィスに近い永代橋両端の大寒桜である。その後、一斉に咲く隅田川沿いの桜は土手を歩いても、また水上バスから眺めても壮観の一語に尽きる。

休日に千鳥ヶ淵の桜を見物にゆくのも年中行事である。武道館では入学式のシーズンで、文字通り、桜咲いたら一年生がそこそこに溢れる。大変な人出にもかかわらず毎年、懐かしい誰かしらに出会うのも桜がとりもつご縁かも。旧交を温めた後は英国大使館の前を通り、皇居の堀端を一周して帰途につく。

満開の時は言うに及ばず、花びらがお堀に浮かぶ様は絵になる。

4月中・下旬頃には、常磐道、磐越道といった高速道を飛ばして福島県三春の「滝桜」を見にゆく。樹齢千年超と言われる神々しいまでに美しい紅枝垂桜である。

5月の連休にかけては、青森の弘前公園の桜が素晴らしい。

早朝に起きて始発の私鉄に乗り、東北新幹線、特急つがると乗り継いで、弘前駅からバスで目的地に向かう。桜の回廊を歩



き、城址に咲き誇る桜の見事さは言葉では言い表せない。大満足で真夜中前の帰宅となる。

こうして桜前線は北上して行くが、その主な対象となるのがソメイヨシノである。ものの本によれば、江戸末期に染井・巢鴨界隈に集落を作っていた造園師や植木職人によって育てられたとある。大島桜と江戸彼岸桜の雑種という説が有力なようで、染井の植木職人たちが人工的に作り出したのか、自然交配なのかは明らかでないとのことだが、前者の努力に違いないと信じている。純粋にソメイヨシノを雌雄とする種は発芽しない為、樹は全て人の手で接ぎ木して今日まで増やされてきた。ソメイヨシノは冒頭に登場した二人の時代には存在しなかった訳であるが、見たとすればどういふ感想を持たれたかを想像するだけでも楽しい。土日や祝日に見頃が重なることを今年も祈るような気持ちでいるのは私ばかりではあるまい。